

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200107		
法人名	社会福祉法人愛育福祉会		
事業所名	グループホームめばえ ( 鶴ユニット)		
所在地	岡山県倉敷市連島町鶴新田1952-1		
自己評価作成日	平成21年10月16日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。( このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390200107&amp;SCD=3">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390200107&amp;SCD=3</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1		
訪問調査日	平成21年10月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅からグループホームへえと環境は大きく変わることになっても、在宅生活と同じように自分のペースで楽しく暮らしてほしいので、そのための援助をします。また、生活にうるおいを感じていただけるように定期的に音楽療法を提供したり、季節の行事を計画して家族と共にその方のペースに合った参加をしてもらっています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

生活に楽しみを取り入れる工夫・・・週1回の音楽療法を両ユニット合同で行い、歌やゲームを楽しんでいる。また、ウッドデッキで度々食事会をしたり、家族を呼んでお花見やもみじ狩りに出かけたりしている。母体の保育園との交流も、利用者にとっては曾孫に会うように、とても楽しみにしていることである。ウッドデッキを利用した催しは両ユニットの交流や家族とのふれあいの場になっている。  
 利用者の気持ちの尊重・・・職員は常に利用者一人ひとりに気を配り、利用者の声や要求を示す行動などに直ぐに応じ、丁寧に声かけしながら、誘導したり行動を助けたりしている。トイレ介助では、外で待機するなどの配慮がある。  
 地域交流について・・・少しずつ取り組み、保育園のほか小学校との交流にも取り組んでいる。

## サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を通して人間としての心構えを自覚し実践に繋げていけるように努めている	「五徳」の理念を掲げ、目指すサービス・運営方針など、多くの言葉を掲げている。職員間では「以前の生活を生かしてその人らしくマイペースで生活してもらおう。」ホームを目指している。理念について法人と検討中である。	実践しているケアの積み重ねが『どんなホームを作っていくか』を話し合えば、解り易い理念となる。五徳の心構えを大切にしたい具体的な取り組みをしていけばよいと思う。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生委員から地域の情報をいただきながら参加できるものがあれば参加している	地域とは散歩で挨拶を交わす程度で、友人が訪ねてきたり、民生委員が行事に参加してくれたりしている。また、民生委員の情報を得て、小学校や地域のサークルとの交流に少しずつ取り組んでいる。	保育園や小学校との交流に取組むとともに、行事や避難訓練に参加してもらえるように、近隣に声かけする努力も続けて欲しい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	GHに相談に見えたり、電話があれば話を聞き出来る限りの助言等をしている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員から地域の情報を提供してもらったり、参加してもらっている家族からも来訪時には聞けないことも聞けるので、その内容はユニットに持ち帰り検討している	家族代表・民生委員などの参加で、ホームの状況や評価結果の報告をしている。家族や民生委員の意見や情報ももらっている。包括支援センターや市にも積極的に訴え、前は参加してもらった。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GHでできる事や出来ない事がわからない時には尋ねる程度で、他は運営推進会議の出席をお願いする時に連絡を入れる。事故報告書等は随時送っている	市介護保険課には積極的に連絡を取ろうとしている。事故報告書の送付以外に、運営推進会議への参加要請や質問などを行っている。市の対応が不十分。社協のグループホーム分科会にも参加している。	市当局の職員の方はグループホームの実態を知り、認知症ケアの行政に生かすよう積極的な参加を外部評価機関としてもお願いする。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の研修は全員には至っていない。どういことが身体拘束なのかは日頃の会話の中で話し合っている	できるだけ自由に行動してもらおう方針であり、研修も受けて職員間で話し合っている。玄関はチャイムがあり、鍵はかけていない。安全と身体拘束との問題を、利用者個々について職員間で話し合っ決めてようとしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と共に今後の課題で研修等に力を入れていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修時、言葉は聞いていても具体的にどういふものかは職員全員は理解できていない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず家族と顔を合わせて契約等行なっている。その時には重要事項説明書沿い一つ一つ説明を行い質問などに対応している		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し無記名で意見を書けるようにしている。また運営推進会議に参加している家族から意見を出してもらうよう努めている	意見箱では家族からの意見は出て来ないので、面会時、ケアプランのとき、運営推進会議などで声かけして、聞き出すようにしている。面会の機会を多くし、担当者からの報告をして、要望を聞いている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期で個人面接を行い反映できるものは反映し、働きやすい職場作りを目指している	職員会議は毎月1回ユニット毎に全員参加で行っている。リーダーが議長で利用者個々の問題や運営について、またストレスの問題などについて気軽に話せ、意見も出てくるようになっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々の状況を把握するように努め、代表者に報告・相談している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格の職員も採用しているので力量を把握して必要な研修を受けることができるように努めている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	倉敷市のグループホーム分科会へ参加をしたり、グループホームの見学に行ったりして、他の事業所の職員との交流を図り、サービスの見直しをして質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の現状・気持ちに耳を傾け、家族を含め関係を築けるようにしている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が本人とどのように接し、どのような思いをも抱いているのか、施設入居にあたっての要望などを聞いている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人と顔を合わせ話をし、現状や思いを聞き、どのようにケアに活かしていくか検討するようにしている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員主導になってしまっていることもあるが、日常生活でわからないことは入居者に尋ねたり、一緒にするよう努めている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	消耗品持参や受診援助など家族と本人が顔を合わせる機会を設け、家族との繋がりを感じてもらえるようにしている。日頃の様子も家族に伝え、生活状況を把握してもらうようにしている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみのある方とは手紙や面会での交流を続けてもらっている。行きつけの美容院などあれば入居後も継続して利用していただいている	近所にいる友人との付き合いや行きつけの美容室の利用などを支援している。入居時に聞いた経歴のほかに、日常会話から得た過去の情報を生かし、思い出話をしたり、出かけたりして関係の継続性を保ちたい。	入居時だけでなく、会話の中から聞き出した利用者の詳しい経歴と思いを記録しておき、アルバムを利用して話をしたり、外出先を選んだりして、過去のつながりを大切にしたい。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、席の配置をしている。入居者同士の関係が円滑に保たれるよう、聴力の悪い方やコミュニケーションをとるのが難しい方には職員が間に入るようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の際には写真や色紙・本人の作品等を渡している。退去後家族と連絡をとる機会があった時には、本人の現状を伺っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で、本人の思いを汲み取るようにしているが、難しい時には家族にも相談し、本人が納得できるような対応を考えている	日常は一人ひとりの動きや言葉に常に気を配り、何をしたいか聞き出している。夜一人で出てきたり入浴中の1対1で話ができる時には、ゆっくり本音を聞く事が出来ている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からこれまでの生活を聞いたり、本人との日々の関わりから当時の生活状況をうかがい知ることができたりするので普段の会話を大事にしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者ができる事・援助が必要な事や生活パターンを把握し、職員全員が周知できるように記録し申し送りしている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または状態変化があった時など必要時にはカンファレンスを開き、その課題についてどのようにケアをしていけばいいか話し合いをしている	家族や本人の希望を聞いて、定期的または必要に応じて計画の見直しを行っている。リーダー・担当者・計画作成者とでカンファレンスを行い、利用者の状況を十分考慮した介護計画を立てている。	本人や家族の思いを聞き出したり、日頃のケアから知りえた情報を記録しておき、介護計画の中に考慮していきたい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に昼夜の様子や本人の言葉などを書き、職員間で情報がきちんと共有できるよう申し送りをしている。必要な時にはカンファレンスを行いケアの見直しをしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要物品持参や受診などは基本的に家族にお願いしているが、本人や家族の状況に応じて相談の結果、職員が家族に代わり対応している。デイサービスでの活動やイベントに参加させてもらうこともある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の店舗に買い物に行っている。運営推進会議には民生委員や地域包括支援センター職員に出席してもらい、地域の情報などを提供していただき参加できることがあるか検討している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医による診察を受けている。往診以外は基本的に家族に受診援助をお願いしている。家族対応が難しい時は職員が対応し主治医に状況を伝えている	家族の援助により、個別のかかりつけ医の診察を受けている。医師との連絡は家族が取り合うが、異常時には職員も連絡を取る。緊急時には提携している大病院へ行く。訪問看護も週1回利用している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来て健康管理に関わってもらっている。一週間の様子、尋ねたい事等を伝えアドバイスをもらっている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は医療機関や家族から現状を聞き、退院後の生活援助など今後に向けての話をしている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に当施設では終末期対応ができないことを伝え同意書も交わしている。重度化した時は家族と話をしている機会を設け、受け入れ先など今後に向けての話をしている	利用者が口から食事が出来る間は支援できるが、どこまで対応するかは家族や医師との話し合いで決める。看護師がいないので、常時医療が必要となれば病院などの受け入れ先を話し合う。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網やマニュアルはある。訪問看護師に対応の仕方のアドバイスをもらうこともある。研修に参加しているが、全員周知にまでは至っていない		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年毎に日中・夜間設定での避難訓練を入居者と一緒を実施している。地域との協力体制は不十分	6ヶ月に1度避難訓練を行い消防に報告している。昼間と夜間との設定で、利用者はゲーム感覚で参加し、外で待機する職員と合わせて全職員が参加する。近所の人にも参加してもらって声かけをしていきたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親近感のある声かけをしてはいるが、目上の方であることは念頭に置いて接し、自尊心を傷つけないよう入居者の状況を把握した接し方をするよう努めている	言葉遣いよりも心・気持ちを大切にすることがプライバシーや人格の尊重と考えている。利用者一人ひとりの気持ちを察して、自分で出来ることをさせてあげたり、必要な手助けをする支援をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主導で決めてしまうのではなく、入居者自身が選択し決められるように心掛けてはいるが、一方的に提供してしまっていることもある		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の流れは大体決まっているが、体調やその時の気分で本人のペースに合わせている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月毎に理美容の業者が来ている。行きつけの店がある方にはそちらに通っていただいている。頭髪や着衣の乱れを整えたり、爪や髭そりなど自分でする事が難しい方には援助している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話から食べたいものなどを聞き、実際のメニューに生かすようにしている。一緒に調理・盛り付け・片付けをしている	庭で収穫した野菜を使った献立をしたりウッドデッキで食事会をするなど、楽しく食事する工夫をしている。同じ献立でも利用者の体調に合わせて調理法や量を変えている。調理や盛り付けを手伝う利用者もいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれに応じてお粥や刻み食・ミキサー食・高カロリー栄養補助食品を提供している。水分も一日1000ml以上を目標に提供している。摂取状況確認の為、チェック表をつけている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけをし必要な方には介助についでいる。口腔状態に異変がある時には歯科受診・往診をお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付けている。必要な方には定期的に声かけ・誘導をし、なるべくトイレで排泄できるよう援助している	利用者の意思表示による誘導や、排泄チェックの時間帯による誘導をして、出来るだけトイレで排泄するよう定期的に声かけしている。トイレ介助は外で待機し、転倒に気をつけながらプライバシーに配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便日のチェックをつけ、必要時には腹部マッサージをして排便を促すようにしたり、体操を実施している。また、排便を促す薬を服用している入居者には排便の状況で薬の調節を行っている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大体一日おきの入浴となっているが、その日の体調や希望を考慮している。時間は現時点以外での時間帯での入浴は難しいのが現状。本人の羞恥心に配慮し安全に入浴していただけるよう援助している。	2日に1度入浴している。時間に余裕があれば毎日でも希望に応じる。入浴拒否者にも、不安を取り除きうまく誘導することで、少しずつ回数を増やし、入浴できるようになった。コミュニケーションを大切にしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間しっかり睡眠がとれるよう、なるべく日中活動を促すようにしているが、一人ひとりのペースやその日の体調に合わせて休息をとってもらっている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の仕分け・管理を確実にし、服用の際には本人の薬であることを確認し飲み終えるまで見届け、服用後はチェック表に付ける。処方変更等があった時はケース記録に記載している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の手伝いやアクティビティを無理のない範囲で参加してもらっている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候の良い時にはウッドデッキに出て過ごしたり、一緒に水やりをしている。頻繁ではないが、畑に行ったり散歩をしている。「どこかに行きたい」など要望があれば家族にも連絡し協力を仰いでいる	外出はほとんどが車椅子になったが、近所の散歩や買物に出かけている。家族と一緒に花見や紅葉狩りに出かけることもある。時には数人でドライブや外食を楽しむこともある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金を置いている方、家族から預かり事業所が管理している方がいる。自分で支払いできる方には職員見守りの下していただき、支払い後には金銭出納帳にその旨を記載している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の依頼があれば対応している。手紙は表書きをしたり、ポストへの投函の支援をしている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のある飾り付けをしたり入居者が安全に過ごせるよう物品の配置に気をつけ室内の環境を整えている	広いウッドデッキが交流の場であり、寛げる場となっている。オープン型キッチンを利用者との一体感があり、手伝いも頼みやすい。室内のソファなど自由に座れる場があり、ゆったりと過ごせる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやウッドデッキのベンチでゆったり過ごしたり入居者と会話を楽しんだり自由に過ごしてもらっている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物等を持ち込んでもらったり、写真や塗り絵等の作品を壁に貼っている。居室で安全に過ごせるよう家具の配置に気をつけている	各個室に掲示用コルクパネルが設けてあり、家族写真や、利用者の作品、俳優の写真などを貼ってある。思い出の品やアルバムなどあるともっと話題も増えるだろう。洗面台があるのは便利。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が安全に過ごせるよう物品の配置にきをつけたり居室で移動に援助が必要な方には布団などに小さい鈴を付けさせていた		